

令和6年度第4回教育委員会協議会 会議録

令和6年度第4回教育委員会協議会

場所：高知県庁西庁舎 2階 教育委員室

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 令和6年12月25日(水) 14:40

閉会 令和6年12月25日(水) 16:30

(2) 教育委員会出席者

出席委員	教育長	長岡 幹泰
	教育委員	池 康晴
	教育委員	小田 通
	教育委員	森下 安子
	教育委員	町田 美紀
	教育委員	弥勒 美彦

(3) 主な出席者

高知県教育委員会事務局	教育次長	濱川 智明
〃	教育次長	今城 純子
〃	高等学校課課長	並村 一
〃	高等学校振興課課長	野田 健一
〃	小中学校課課長補佐	大崎 万紀子
〃	特別支援教育課課長	板橋 潤子
〃	保健体育課課長	前田 義朗
〃	人権教育・児童生徒課課長補佐	青野 真弓
〃	高等学校振興課主事	金田 莉歩(議事録作成)
〃	高等学校振興課指導主事	大石 智則(議事録作成)

(4) 議事の概要

【冒頭】

教育長	ただいまから県立高等学校再編振興計画の次期計画に関する、令和6年度第4回教育委員会協議会を開催する。 本日は県立高等学校再編振興計画の次期計画策定に向けてご検討をいただき。次期計画の基本的な考え方やポイント、主な取組、高等学校のカテゴリー別の取組内容、前期実施計画の取組、次期計画の名称について、項目ごとに協議を行う。
-----	--

【資料説明】

- ・「これからの県立高等学校の在り方に関する報告」の概要について
- ・市町村との意見交換について
- 高等学校振興課長 説明

【議題】

1 市町村との意見交換について

○質疑

教育長	ただいまの事務局からの説明について、市町村との意見交換等について、ご質問をお願いしたい。
-----	--

池委員	<p>中山間地域 13 校の関係市町村を回ったということだが、市町村によっては県立高校存続に対する思い入れや熱量が違うと思う。熱量の少ないところをどうするか。</p> <p>また、高等学校は市町村立や学校組合立の学校ではなく、県立の学校なので、県としてどのようにサポートしていくか、財政的なことも含めて説明いただきたい。</p>
高等学校 振興課長	<p>今回、市町村を訪問させていただいたことで、県立高等学校の取組が十分に知られていないことを感じた。特に県の中央部に近い市町村は、高知市・南国市の高等学校に比較的通学しやすい環境にあることから、いわゆる地元の高校として意識は若干薄いといった印象を受けた。</p> <p>しかし、地域にとって学校は必要という認識の報告もいただいているので、そのような思いを持っている方と協働することは重要だと思う。</p> <p>今回の計画では、コンソーシアムという推進母体を立ち上げ、学校と市町村がアクションプランを策定・実行する。コンソーシアムの立ち上げに当たっては、事務局が市町村と学校の話し合いのきっかけをつくる。</p> <p>話し合いの場には、全国で魅力化に取り組んでいる法人も招き、全国の取組状況や、本県で魅力化に取り組んでいる先進事例の説明を通して、自分事としてアクションプランを策定・実行というふうに取り組みたいと思っている。その中で、市町村が取り組むものについては、人口減少対策総合交付金などを活用できるので、アナウンスしていければと思っている。</p>
小田委員	<p>アクションプランの取組は良いと思っている。すでにアクションプランを実行して成果を出している市町村や学校などはあるか。</p> <p>アクションプランによって、学校も良くなり、地域も活性化するというウィン・ウィン（Win-Win）の形が理想的ではあるが、目標を達成していくためにグッドプラクティス（優れた取組）を紹介していくこと、県として財政的な支援をしていくことも必要と思う。</p>
高等学校 振興課長	<p>すでに、地域コンソーシアムや魅力化の会も含めて取り組んでいる学校は幾つかある。その中で紹介できるのは嶺北高等学校だと思う。本山町、土佐町、大豊町、大川村の 4 ヲ町村首長が音頭をとり、会議を進行している。嶺北高等学校に対してどのように力を合わせていくのかということも 5 年前から実践している。</p> <p>全国募集を推進したり、公営塾を設置して生徒の学びを支援したり、英語学習、探究学習に取り組んでいる。地域の方で「嶺親の会」という組織を作り、募集生徒の受け入れやサポートの役割分担をして取り組んできた結果が生徒数の確保に繋がっているのではないかと。</p> <p>先進的な取組事例は、横展開していくということで、これからコンソーシアムを作るところにも紹介させていただこうと思っている。</p> <p>市町村がアクションプランに取り組むときに必要な予算については、人口減少対策総合交付金を紹介しているが、県教育委員会としてできる補助について、財政課とも協議をしているところだ。</p>

町田委員	<p>嶺北地域では、5年前からアクションプランを行っているということだが、生徒の受け入れについては移住政策と連携していく必要がある。受け入れ体制が整えられている地域はどのくらいあるか。</p>
高等学校 振興課長	<p>生徒が居住できる施設を町として設置しているのは、本山町、土佐町（嶺北高等学校）、梶原町（梶原高等学校）だ。また、黒潮町が大方高等学校の生徒に対して、36人生活できる交流センターを整備しており、令和7年度から使用できる。現在、土佐清水市が清水高等学校の生徒に対して、小学校の跡地を改修して共有施設を造ろうとしている。</p> <p>新しく施設を造ったり、既存の施設をリノベーションしたりして、地域外から生徒に来てもらえる環境をつくるには、人口減少対策総合交付金が活用できるので、各市町村を訪問し紹介をしているところだ。</p>
教育長	<p>中山間地域の13校の関係市町村から出た意見の最初に出されている「郡部の高等学校を残していくためには中央部を縮小していかなければならないのではないか」についてはどのように考えているか。</p>
高等学校 振興課長	<p>入学定員の見直しについては8月の教育委員会協議会でお示ししたとおり、計画期間内に1200人以上減らす必要がある。どう減らすかについては、中山間が減っているから中山間を中心ということではなく、高知市中央部の高等学校も聖域とせず、生徒数の減少を見据えて、段階的にバランスをとりながら減らしていくことが必要だと思っている。</p> <p>また、高知市・南国市の一定規模がある学校については、学級規模の目安を示していくことも必要だと考えている。</p>
教育長	<p>バランスよく減らすという感覚でよいか考える必要がある。バランスよくという全体を小さくしていくと聞こえてしまう。そういう考え方でよいか。</p>
高等学校 振興課長	<p>高知市・南国市ではスケールメリットを求めて進路選択の際に選ばれているので、一定規模を維持していくための基準を作っていく必要がある。魅力化・特色化として一定規模を維持していくメリハリも必要である。前期実施期間でのアクションプランや、高知市の高等学校、産業系の専門高等学校も含めて取組の評価をしていくことも必要だ。</p>
弥勒委員	<p>高知県の人口推計はかなりの精度でわかっているので、学校ごとの入学定員をどう導くかはとても難しいテーマだ。学校の定員を議論する上で、市町村も含めた高知県全体の将来構想とリンクさせなければ、無駄な議論になってしまう。歩調を合わせていくことも必要ではないか。</p>
高等学校 振興課長	<p>ある程度の子どもの数は想定ができるので、各高等学校にどれだけの生徒が来てくれるかだ。規模は小さくなると思うが、郡部の高等学校がきらりと光って、満足度の高い学びを実現するためには、協働的な学びの形が必要であり、そのために一定の規模が必要という整理だ。一方で、南国市や高知市の高等学校においては、ダウンサイジングだけではなく、こま</p>

	<p>でになると再編しなければいけないという一定の基準を定めることも併せて考えていく必要がある。</p>
森下委員	<p>大学に進学するなら高知市にということだが、大学入試は、学力だけでなく、協働性を見るように変わってきている。市町村との意見交換を聞いて、行政や保護者に対して、魅力化が大学入試に繋がるという理解が深まるよう伝える必要があると思った。</p>
高等学校 振興課長	<p>市町村訪問では、例えば、高知市の一定規模がある学校より中山間地域の高等学校のほうが、国公立大学を受験した生徒の合格する割合が高いことに驚く場面もあった。市町村は、探究的な学びなどの活動をプレゼンすることで進学につなげていることを初めて知ったということであった。学校と地元の市町村、地域の方と話し合う場も必要ではないかと思った。機会、広報の場は、もっと作っていく必要がある。</p>

2 次期計画の基本的な考え方、ポイントについて

○高等学校振興課長 説明

○質疑

教育長	<p>次期計画の取組が大きなポイントだと思う、皆様からご意見をいただきたい。</p>
小田委員	<p>アクションプランによって、高校の魅力化・特色化を図っていくという方向性は大事だと思っている。コンソーシアムというシステムを作り、市町村の教育委員会と学校がタッグを組み、地域資源を活用しながら、アクションプランを進めて行くとき、教育課程をリードしていくのは、高校の先生方だと思っている。</p> <p>新しい学習指導要領では「総合的な探究の時間」が実施されており、そこが一つのポイントだと思っている。通常やらなければいけない教育課程はあるが、学校が特色を出すとなると、「総合的な探究の時間」に特色を出していく必要がある。「総合的な探究の時間」と改められた「探究」というものを、高校の先生がもう一度見つめ、自分の学校の取組が本当にふさわしい内容になっているかという観点から改善を図っていくことが大事だ。</p> <p>アクションプランの中に、「総合的な探究の時間」の取組が色濃くあらわれたらよいと思っている。そのためには、高校の先生方が、「総合的な探究の時間」の意義や役割をとらえる必要があると思う。そのような取組を行っていくのか。</p>
高等学校 振興課長	<p>県立高等学校の在り方検討委員会から出た意見で、一番大事なのは魅力ある授業ということだった。魅力ある授業を各地域でどのように展開するかということだ。</p> <p>魅力ある授業の一つに探究的な学びというものがある。探究的な学びを各地域で行うためには、活かされる資源がそれぞれ違うので、資源をどのように使うか、地域コンソーシアムの中で協議し、資源、人材を共有し、中学校にもコンソーシアムに入ってもらい、中学校と高校の繋がりをもった探究活動ができればよいと思っている。</p>

	<p>まず地域の力をいかに借りるかというところが今回のコンソーシアムの大きな目的の一つ。また、今まで市町村教育委員会の中だけで繋がっていたものを、首長、部局長にも参加していただくというのがもう一つの目的だ。地域のまちづくりといった方にも入っていただく中で、町として県立高等学校や子どもたちをどう育てていくのかといった活動ができればよいと思っている。</p>
<p>高等学校 課長</p>	<p>補足をさせていただく。 高等学校における「総合的な探究の時間」は、学校によって温度差があるのが事実だ。市町村と一緒にあって、地域の課題解決型学習に取り組んでいるところがある一方で、学校の中でも、何をするか定まっていなところもある。今年は、管理職を対象に総合的な探究の意義等を改めて確認いただくような研修も実施した。また、それぞれの学校に持ち帰って魅力化につなげていければと思っている。</p>
<p>小田委員</p>	<p>地域では、「総合的な学習の時間」に力を入れている小学校や中学校もたくさんあるので、小学校、中学校、高校が連携した取組もやっていただきたい。</p>
<p>池委員</p>	<p>高校の先生だけで探究を進めるのは限定的だし、できることしかテーマにしないというイメージもある。大学との連携や、高知県で実際に困っている中身について、企業等に年2、3回来ていただいて、提案いただいたことについて探究して、発表することでお返しするような形の探究を進めていけば、先ほど森下委員から大学入試は学力だけではなくそういう力を求めているというお話もあったように、大学や地域、企業との連携を進めていくのが魅力化に繋がるのではないかと思う。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>課題解決型の学習は各学校でも取り組んでいるが、温度差があるということだと思う。それについては、県教育委員会として各学校に取組を進めていくようにしていきたい。 山田高等学校を中心にした、地域課題探究成果発表会を複数の学校が参画してやっている。どのような取組をしているか生徒同士が共有し、学び合いを進める中で、答えのない問いに向き合い、生徒が主体的に取り組める探究型の学びを進めていけるようにしたい。</p>
<p>池委員</p>	<p>入学定員や入試制度の見直しも検討に入ると書いてあるが、1200人を8年間で減少させるというのは大きな削減になる。具体的な計画はあるか。入試制度、高校入試をどう変えていくか説明いただきたい。</p>
<p>高等学校 課長</p>	<p>入学定員、入試制度については、これから具体的な検討に入っていく。 現状でも入学定員数と実際の入学者数に開きがあるので、各地域それぞれの子ども数と併せて検討していく。 入試制度について、高知県ではすべて3月に入試を実施しているが、他県では、推薦入試を1月下旬から2月上旬に行うところもある。全国から生徒を募集にするにあたって、入試時期の遅い高知県を選ばないという傾</p>

	<p>向もあるので、そういったことも睨んだ入試時期を設定する。</p> <p>スクール・ミッションをうけて、各学校がスクール・ポリシーを設定するが、スクール・ポリシーには入学してきて欲しい生徒像が含まれるので、そういった生徒に入学してもらえよう、学力テストだけではない各学校の特色に応じた入試ができればよいと考えている。</p>
弥勒委員	<p>10 ページに、県立高等学校の現状と課題があり、地域や学校によらない多様な教育活動の必要性、「従来の進学拠点校以外の学校でも国公立大学進学者数が増加」ということが書かれている。何が鍵だったのかももう少し詳しく教えていただきたい。</p>
高等学校 課長	<p>例えば、中山間の小規模校においては、科目選択の際に人数の少ない物理は開講できない状況であった。教育センターから遠隔授業を配信して、少人数でも物理を選択でき、授業を受けられた生徒もいる。そういった生徒が国公立大学へ進学しているので、高知市内のいわゆる進学拠点校といわれる学校以外からも、国公立大学への進学者が増えてきたという状況だと思っている。</p>
弥勒委員	<p>中山間の小規模校においては、教育センターからの遠隔授業により物理の授業を受けられたということであり、ある意味のハンディキャップをオンラインで減らすことができたということか。</p> <p>増加したということなので、従来に比べて増加したということか。</p>
高等学校 振興課長	<p>大学入試が変わってきており、中山間地域の学校に進学した子どもたちが、自分が活動した探究的な学びをまとめ、総合選抜型入試で大学進学に繋がったということもあるかと思う。</p>
弥勒委員	<p>近年、ネットワークを使って地方のハンディキャップを減らすことができる可能性は増えてきた。ICTの進歩によることだと思う。人口減少、少子高齢化の最先端という意味では、たくさんある課題を逆手にとることが可能だと思う。一方で、オンラインで授業配信はできるかもしれないが、直接のコミュニケーションに勝るものはないと思うので、その不足している点をいかに補うかということも重要だ。</p> <p>運動など体力の向上では、部活動等での地方のハンディキャップを減らして、なおかつ地方ならではの活動ができる環境も必要になるのではないか。全国からその高校に行きたいという学校が地方の中に生まれることは夢のような話かもしれないが、弱みを強みに変えていける可能性もあると思った。</p>
高等学校 振興課長	<p>市町村と協力しながら特色ある部活動を行っている例として、室戸高等学校では女子硬式野球部、嶺北高等学校ではカヌー部がある。特に嶺北高等学校では、世界チャンピオンを指導者として招聘し、直接指導を受けることを目的に入学する生徒もいる。</p> <p>また、檜原高等学校のように、町を挙げて野球部の活性化に取り組み、グラウンドを貸与する、大型バスを確保して遠征に行きやすくするといっ</p>

町田委員	<p>た支援をもとに、高知市以上に部員を集めているといった特色もある。</p> <p>コンソーシアムでどのような活動が強みで魅力に繋がるかということを実感している。先を見据えて、地域との協働いただくことで、地域の資源を生かしたクラブ活動にも繋がっていくのではないかと思う。</p> <p>地域とのコミュニティづくりが大事になると思うが、コミュニティづくりには数年かかるということを実感している。先を見据えて、地域との繋がりをどう作っていくか、これから実現していくのだと思う。</p> <p>現在、高知大学地域協働学部は地域と密接な活動を行っているが、最初は地域に馴染めていなかった。それがだんだん馴染んできて、良い関係になるということを実現している。高知にはそういう事例があり、高校でも地域に根差している学校がある。</p> <p>地域とのコミュニティづくりは、時間がかかるという前提で、実際の子どもたちの声をより反映するような施策をやっていければよいと思う。</p>
高等学校 振興課長	<p>大学との連携は、取組のポイントとして挙げているところだ。例えば来年度、清水高等学校が未来共創科に改編するが、この改編に合わせて、高知大学とも連携し、探究的な学びをどうするかについて、生徒や教職員への研修も含めて協力いただいている。それぞれの学校で、地域の資源を活用して何ができるのかということ、大学と関係を築き、力を借りながら展開していきたいと思っている。</p>
森下委員	<p>11 ページにある多様性への対応が大事だと思う。少子化だからこそ高知県は多様性を尊重し、一人一人を大事にするということが特色だと思うので、共通性を一定確保しつつ、多様性を伸ばしていくということが計画の基本の考えにあることがとても大事だ。</p> <p>地域との協働について、日本は人口減に向けて、全ての施策を地域共生社会に舵を切っている。高知国際中・高等学校の学校運営協議会でも話をさせてもらったが、県にも地域共生社会室があり、高知市でも地域共生社会推進課があり、産業も教育も行政も一体的にやろうとする動きがそれぞれにある。</p> <p>国の流れと一緒に、教育委員会だけではなく、県庁全体として取り組む体制を作る機会ではないか。色々なところと連携すれば改革していくチャンスになるのではないか。行政も一緒にコンソーシアムを立ち上げ、アクションプランを作って取り組んでいくことが大事だ。</p>
池委員	<p>多様な学び方ができる高等学校を設置するという案に賛成だ。</p> <p>日本語指導が必要な生徒を対象としたコースも考えていると書かれているが、例えば、障害のある方と共生するというイメージを考えたときに高等学校入学へのハードルが高いと思う。その部分について、今後検討していくのか、インクルーシブについて、日本は世界から遅れていると言われるが、今回の計画の中で触れられるのか。</p>
高等学校 振興課長	<p>全てを計画の中に書き込むことは難しい。多様な学び方ができる高等学校にどのような生徒のニーズがあるかということを確認した上で、計画期</p>

	<p>間中に設置することを考えている。</p> <p>どの学びがよいのか、また、定時制という形の中で受け入れることがよいのかということについて、計画期間中に検討し、ニーズを調査しながら進めていけたらと思うので、年次改訂という形も考えている。子どもたちの状況も確認しながら進めていきたいと思っている。</p> <p>基本的には、全ての高等学校でそのような学びができればよいが、対応できない部分について、どのような学校づくりができるかについて並行して考えていけたらと思う。</p>
池委員	<p>県だけで解決できる問題ではなく、今のところ、国の定数配置や財政措置が高等学校にはほとんどない部分もあるので、国への呼びかけも含め、県独自で何ができるかも検討に入れていただくとありがたい。</p>
高等学校 振興課長	<p>個別の指導計画などを作成しなければならない子どもにとって必要となる教員配置はどれだけかということについて、政策提言なども活用しなければならない。</p>

3 高等学校のカテゴリー別取組内容について

○質疑

教育長	<p>資料 12 ページがスクール・ミッションとカテゴリー別の取組内容、学級規模の目安等となっている。このうち、区分 A 高知市・南国市の学校と、区分 B 地域の拠点校のカテゴリーについてご意見等をいただきたい。</p>
池委員	<p>入学定員削減の中で一定規模の学校が必要だという話があった。すべての高等学校の定員をバランスよく減らしていくという話ではなく、県の中央部周辺も含めた再編統合も視野に入れていく必要があると思うが、この段階では明記されてない。</p> <p>学級規模の目安である 1 学年 4～6 学級は、県立高等学校の在り方検討委員会からいただいた数字なので異議はないが、高知市・南国市にある全部の高等学校が 4 学級規模になってしまうと、教育効果も失われるということもある。後期になるかもしれないが、思い切った再編統合も必要ではないか。</p>
高等学校 振興課長	<p>生徒数が比較的多い高知市・南国市の高等学校においては、学級規模の一つの目安として 4～6 学級なので、4 学級規模を下回ると再編の検討対象になるということが前提だと思っている。そして、スケールメリットを生かすために 6 学級規模がどうしても必要な学校の在り方については、前期実施計画でお示しすることは難しいと思っている。</p> <p>後期実施計画に向けてどうするのか、教育委員の皆様と協議させていただきたい。</p>
弥勒委員	<p>通信制は、色々な形態の教育を求める生徒がおり、色々なニーズがあるので全国的に生徒数が増えているという話もあったと思う。</p> <p>通信制は自宅で学ぶということになるので、実現するためには端末の提供やネットワーク環境の整備は必須だ。学びの環境整備についての考えを</p>

<p>高等学校 振興課長</p>	<p>教えていただきたい。</p> <p>通信制教育の見直しについては 16 ページに示している。協力校については、中山間地域の高等学校の定時制夜間部を見直していく。</p> <p>通信制の生徒が自宅で学ぶことについては今も同じだが、今回の計画における通信制協力校は、中山間地域の高等学校にあり、ここに通学してパソコン等を活用してオンライン学習をしたり、レポート作成をしたりする仕組みを構築したい。</p> <p>タブレットなどの配付によって、自宅で学習できる環境は作れると思っているが、自分で学ぶことが苦手な子どももいるので、周りにサポートができる職員がいる環境を整え、通信制のメリットを活かして、対面指導もしながら取り組むことができればよいと思っている。</p> <p>広域通信制高等学校の生徒が 1 年間で 2 万人以上増えており、全日制の高等学校は 2 万人以上減っているという状況だ。通信制の学びが増えているので、私立の広域通信制高等学校だけでなく、県立の高等学校の中で学び、支援できる体制を作っていければよいと考えている。</p>
<p>弥勒委員</p>	<p>自宅で勉強できる人はよいが、自宅ではなかなかできないという人もいると思うので、協力校に通うというのは魅力的な選択肢だと思う。そういう学校が近くにあり、通学が容易であればよいが、例えば公民館や役場など、あらゆる場所が拠点になって、通信制教育を希望する生徒のニーズに応えることも可能性としてあるのではないか。</p>
<p>町田委員</p>	<p>選択肢が増えることで自由度が高くなり、子ども自身が選んだ学びができることはよいと思っている。</p> <p>部活もハイブリッドにできないだろうか。例えばスケールメリットのある場所が、その学校の生徒ではなくて、他の場所からも参加できないか。部活動が魅力的であれば、本人も輝きモチベーションが上がる。そして、学校の勉強にもよい影響があると実感している。</p> <p>また、課外活動もハイブリッドにできないか。商店街や、あらゆる場所を使うという発想は高知だからこそできる。自然を学ぶこともできる最先端の学びもできる。マイナスをプラスに変えられる環境が作れると思う。実際どこまでできるか盛り込んで検討できればよい。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>高等学校の部活動については、学校単位でないと全国大会につながるできないなどの縛りがあるので、協議が必要だと思っている。しかし、やりたい活動ができることに関しては、地域で進める事ができる。</p> <p>窪川高等学校では、総合スポーツ部という形で地域のスポーツにそのまま参加できる仕組みを作り、やりたい活動ができる。そのようなことを学校の中だけで考えるのではなく、地域や市町村等と一緒にできる活動につなげ、子どもたちの満足度が高まるような取組を広げていけたらよいと思う。</p>
<p>小田委員</p>	<p>区分 A～E のカテゴリーに分類して、学校の特色を整理していくことは大事だと思う。B の「地域の拠点校」4 校は、従来から中高一貫校として</p>

	<p>頑張ってきた学校や伝統的に役割を担ってきた学校だと思う。</p> <p>地域の拠点校が輪郭を際立たせていくことは大事なので、どのように支援をしていくのか。また、横の繋がりも気になる。Cの中山間地域の小規模校との関わりがどうなるか、コンソーシアムに入っていくのか。</p> <p>カテゴリーについて整理するが、横の繋がりを一緒に検討することも必要だと思う。Bの学校への支援や、BとCの繋がりについて、今後どのように取り組んでいくのか。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>市町村訪問でも、各地域の子どもたちの進路意識は高知市・南国市の高等学校に向いているという話があった。生徒数の確保や、生徒の他地域への流出を食い止めることに関して、地域の拠点校の役割は重要だと思っている。</p> <p>東部は安芸高等学校、幡多は中村高等学校という拠点が魅力的になることで、地域の子どもたちが進学し、そして、そこでの教育内容をどうするかということに尽きると思っている。各地域の拠点校での学びは一定のスケールメリットがあるので、指導体制の充実について、県教育委員会も力を入れていきたい。</p> <p>地域の拠点校は地域の学校でもあり、広域の生徒を確保するという役割もある。両方の役割を学校が意識して、地域だけではなく、東部であれば東部の幅広いところへ学校の魅力を発信する取組も必要だと思っている。</p> <p>地域との繋がり、例えばCのグループ、コンソーシアムとの繋がりについては、今後、連携ができるか検討していきたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>Cの区分についての意見が入ってきましたので、併せてご意見等あればいただきたい。</p>
<p>池委員</p>	<p>市町村との協議は今回の計画策定をもって終わるのでなく、計画が策定された後も活性化策を進めていくので、連携、意思疎通は常に続けていただきたい。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>今回の計画は策定して終わりではなく、3年間アクションプランに取り組むことが重要となっている。コンソーシアムの構築には、県教育委員会事務局職員も入らせていただいて、立ち上げ後も進捗状況の把握や支援について継続して考えていきたいと思う。</p> <p>また、市町村との意見交換は非常に有効だと思うので、そういった場も持たせていただくようにしたい。</p>
<p>森下委員</p>	<p>中山間地域では、アクションプランを立てて実行しても、成果が出るまでに年数がかかる。数だけで評価するのではなく、市町村の取組状況も含めて評価していただきたい。努力目標や最低規模の目安もあるが、取組状況等を総合的に評価していくことも大事ではないか。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>市町村訪問をしてご説明したのは「3年間一生懸命力を合わせて頑張ってみましょう」という話だ。その3年間の状況を見て、達成の見通しがあるのか、上向きに進んでいるか、なかなか難しいのか、見通しが立たない</p>

	<p>のかという形での評価を考えている。</p> <p>上向きで進んでいけば、そのまま頑張る取組を後期実施計画に反映させていく話をしているので、取組状況には事務局も入らせていただいて進めていきたい。</p>
教育長	<p>Dの産業系の専門高校、そして、Eの定時制・通信制の学校についてご意見はないか。</p>
弥勒委員	<p>企業から産業系の卒業生に求められるニーズは早いスピードで変化している。難しいと思うが、例えばデジタル系などの動きに遅れをとらないような教育のプログラムなど、環境の変化に適応することも求められるのではないか。すでに考えている構想などあれば教えていただきたい。</p>
高等学校 振興課長	<p>産業系の専門高校については、「社会の変化や先進的な産業を視野に入れた教育課程の充実」を方向性に行っている。</p> <p>学校運営協議会には地元企業に入ってもらえるようになっているが、地元企業との定期的な会議の場を頻りに設けることで、社会から求められる人材を学校が共有し、学びに活かしていく事も考えている。</p> <p>また、国の事業であるDXハイスクールの指定校にも、産業系の高等学校である高知工業高等学校・高知農業高等学校・伊野商業高等学校が入ること、先進的な取組を研究して展開していく。</p>
池委員	<p>普通科の高等学校では、学級数が複数あるので、入学定員の削減は比較的可能だが、産業系の高等学校は1学科1学級のパターンが多く、入学定員を削減すると学科がなくなるというイメージになる。</p> <p>委員からあったように、今の社会に応じた学科改編を計画の中で進めていくためには、社会からのニーズを調べ、どういうものが必要かということや学校等と検討して、学科を絞っていく活動が大事になるのではないか。</p>
高等学校 振興課長	<p>主な取組内容にも、学科改編に取り組むということや明記している。必要な学びを考えた上で少子化に対応するには、学科を絞り高知県が必要とする学科を形にしていくよう改編を進められたらよいと思う。</p>
教育長	<p>例えば商業科の教育について、世の中は商業によりお金が回っているところが大きく、商業教育は魅力的であると思うが、高知県全体では高知商業高等学校の人気の高い。伊野商業高等学校も何かできるのではないか。</p> <p>高知海洋高等学校は資格も取得でき、企業からの募集もあるが希望者が少ない。コマーシャルをする必要があるのではないか、魅力や活動自体にもっと磨きをかけなければいけないのではないかと思う。</p> <p>私立の通信制高校は人気の高い。しかし、公立の通信制高校に対する評価はどうか、在り方ややり方に何か問題がないか。研究をして魅力化を図る必要があるのではないか。</p>

<p>高等学校 振興課長</p>	<p>商業や水産の教育については、必ずしもその学びをしたくて商業高校、海洋高校を選ぶという形になっていない状況がある。</p> <p>教育内容について学校と話をし、学ぶメリットを磨き上げる必要がある。それを中学生、保護者にどのように知らせていくか計画期間中に取り組む必要がある。その中で、伊野商業高等学校については学科改編を考えている。</p> <p>また通信制についても、私学と比べると、何を学べるのか周知ができていない、何を学べるかという材料が少ないのではないかとといった課題もあると思う。他県の状況も把握しながら、子どもたちの多様な学びに対応できる通信制教育を取り入れるように検討していく。</p>
----------------------	--

4 前期実施計画について

○高等学校振興課長 説明

○質疑

<p>池委員</p>	<p>区分Eの多様な学び方ができる高等学校について、「決定した学校から順次」と書いているが、令和8年度から始まる予定か。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>多様な学び方ができる高等学校については、令和7年度に候補校を決めていければと思っている。周知期間もあるので、準備を進め、後期実施計画のうちに設置できればと考えている。</p>
<p>池委員</p>	<p>通信制のサテライト校に関してもニーズは切迫しているのでは、後期に設置するという場合ではないと思う。モデル校を指定し、実際にやってみて、課題を研究した上で、課題を解決していく形をできるだけ早くすることが大事になるのではないか。</p> <p>一律に前期は研究期間とするのではなく、通信制或いは多様な学び方ができる高等学校については、前倒しして早期に開設できないか。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>区分Eの通信制協力校の開設については、令和10年度が目標になっているが、令和7年度からの通信制の充実に向けた研究や検討については、前倒しできればよいと思っている。</p> <p>計画の書き方については、検討していきたい。</p>
<p>小田委員</p>	<p>通信制の学校を強化していくことは大事だと思っている。多様な学びが今回の計画のキーワードになっていると思うが、多様な学びの場を子どもたちに提供する意味で通信制を拡充していくことは、デジタル技術の革新が土台にあるからできることであり、今日的な学校の在り方の一つだと思っている。一方、不登校の問題など、早期に解決しなければいけない問題もあり期待は大きいと思う。できるだけ早期にやっていただきたい。</p> <p>通信制教育については、本人が主体的に学習することが本来の通信制教育だと思うけれど、色々な現状を考えたとき、サポートが必要な子どももいる。サポートの仕組みの充実に取り組んでいただきたい。また、通信教育でも、ピアツーピアで学んでいく経験が社会で生きていくために大事な力になる。履修しなければならない課程では難しいかもしれないが、ピアツーピアの学びの場も加味していただきたい。</p>

高等学校 振興課長	通信制教育で自学自習という仕組みはつくることができるけれど、通信制協力校で各地域にピアツーピアやサポートする体制をどのように構築するかについては、一定の研究が必要である。特に教職員定数で協力校の定数はないため、教員か学習支援員やサポーターなのかも含めて、支援体制を整えた上でスタートしないといけない。仕組みを作ることをできるだけ急ぎ進めていきたい。
教育長	区分Cの学校については、前期実施計画の中で11年度以降の学校の在り方を検討していくということだが、例えば、その他の区分Aの学校も、後期には学校それぞれの在り方を、検討していかなければならないと思う。今のまま存続できるのかも考えなければいけない。
高等学校 振興課長	前期実施計画も年次改訂という形をとらせていただいている。区分Cに限らず、区分A～Eの取組状況を毎年確認して、どうしていくのかを反映していけるように柔軟に対応できる計画にしていきたい。

5 次期計画の名称について

○高等学校振興課長 説明

○質疑

教育長	事務局から説明があったが、この計画の名称についてご意見等あればお願いします。
森下委員	振興再編計画にして、別にサブタイトルを作るのはどうか。
教育長	サブタイトルについては次回までにいろいろ考えることとして、計画の名称については、基本的に振興再編計画ということによろしいか。 (一同了承)
弥勒委員	サブタイトルは、多様性などキーワードがたくさんあるので、それらを合わせたらできるだろう。
町田委員	子どもの立場で考えると、選びたくなる学校づくりになるとよいと思う。行きたくなることや、自らビジョンや将来を考えて自主的に選んでいけるような学校になれば魅力的だ。
教育長	ぜひ、夢のあるフレーズをお願いします。